

『2021年度 東京音楽大学校友会総会』も、昨年度同様にコロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、母校に集まった総会は開催できませんでした。例年通りであれば、総会の場で学校法人東京音楽大学理事長より直接、校友会員にメッセージをいただくところですが、今回は座談会という形で丸山恵一郎理事長と佐藤敏明事務局長に校友会の井田康子会長と谷田部敬一副会長がお話を伺いました。

**会長** 丸山理事長は現職の弁護士でもあり、今年4月からは東京音楽大学第17代理事長に就任なさいました。就任から半年が経ちましたが、校友会員（卒業生）へのメッセージをお願いいたします。

**理事長** 卒業された方々が年齢や専攻を越えて一つにまとまる、という事はなかなか難しいと思います。大学でも卒業生同士を結びつける支援をしたいと考えているところです。最近も様々なコンクールで本学の在學生や卒業生が入賞、入選していますが、本学ホームページで随時公開していますので、卒業生の皆さんもそういった情報を得て、喜んでくださっていると思います。校友会でも卒業生の情報や大学の様子など積極的に発信していただきたいので、よろしく願いいたします。これは私の提案ですが《ホームカミングデー》を大学で企画して、中目黒・代官山キャンパスに卒業生を招いて、ご自身の目で新しい大学を見ていただき、ご理解、ご協力を賜りたいと思っています。

**会長** 佐藤事務局長にはこれまで財務部長として校友会の会計についてご助言をいただいていたのですが、今年4月から東京音楽大学事務局長に就任なさいました。改めてメッセージをお願いいたします。

**事務局長** 大学は卒業生で価値が決まると言われています。昨年秋に文部科学大臣などが、コロナの影響を受けている学生の就職支援をするため、経済4団体に、卒業後3年は新卒扱いとすることを要請したため、本学でもキャリア支援センターで卒業生の対応もしています。卒業生の皆さんに寄付金のお願いはかりをするのではなく、在學生、卒業生、大学が一体となる活動を企画して、実施していきたいと考えています。卒業生の皆さんにも喜んでもらえるように努めたいと思っています。

**副会長** 校友会での活動内容は限られてしまうため、大学側で卒業生も参加できる活動を企画し、実施していただけること大変に有り難いです。

**事務局長** 卒業して何らかの組織に所属しておられる方は良いのですが、音楽大学の卒業生は個人で活動されている方が多いので、そういった方々のお力になれば、と思っています。また、池袋キャンパスの付属図書館と中目黒・代官山キャンパスのクリエイティブ・ラボの卒業生の利用についても、情報の受信・発信の場として役立つよう、図書館とも話し合っています。本学事務局には社会連携部という部署があり、地域に開か



谷田部敬一副会長、丸山恵一郎理事長、井田康子会長、佐藤敏明事務局長

れた大学を目指し、様々な連携事業を行っています。大学と校友会（卒業生）が更に開かれた関係になるよう、校友会との連携もしっかりと考えているところです。

**理事長** ところで、音楽の世界（業界）での卒業生の繋がりは強いのでしょうか？

**副会長** 演奏活動をしている者同士は、演奏の場で本学の卒業生（卒業年には関係なく）と一緒に、アンサンブルを組むことも多くあります。仕事場で久しぶりに同窓生に会えば親近感を覚え、懐かしさを感じますが、残念ながら個々の付き合いで止まってしまう、校友会や母校との繋がりになかなか結びつきません。

**会長** 東京音楽大学のこれからについてお話しください。

**理事長** コロナウイルス感染症の感染防止対策のため、学生には大変なご苦労をかけています。2020年度の新入生は入学式が行えませんでした。また、大学院修士課程（修業年数2年）の留学生は2年間一度も来日できずにオンライン授業・レッスンのみで修了していくことになってしまい、大学として大変に残念に思っています。2022年度は全ての授業が対面で行えるように準備を進めています。

**事務局長** 今後は池袋キャンパスの施設を段階的に整備していきます。今まで築いてきた本学の歴史に恥じないように発展させていきたいと思っています。それから、卒業生が卒業後も時々母校を思い出し、心が離れていかない大学としてのサービスを考えていきます。東京音楽大学には大学ロゴ入り記念品やグッズがないので、作って販売するのもいいですね。

**会長** 丸山理事長と佐藤事務局長にご出席いただいた校友会との座談会。校友会（卒業生）へのお二人の温かい前向きなお考えが伝わってきました。校友会も母校の発展に協力出来るよう、現状を把握し前向きに活動していきたいと思っています。



## 池袋 今、昔

井上 洋子 (大19回・ピアノ)

私が東京音楽大学の池袋キャンパスに通っていたのは、40余年も前のこと。改めて時の流れの早さに驚いています。縁あって卒業後に大学の近くに移り住み、今では池袋や大学周辺が地元になりました。令和の時代になっても変化の少ない所は大鳥神社、法明寺、鬼子母神と参道の櫛並木などでしょうか。都電荒川線も「さくらトラム」に名称を改めましたが今も変わらず走っています。

その他は変化が早く街並みもだいぶ変わりました。我が母校も2007年に創立100周年で本館を建て替え、その後B館も耐震工事でスッキリと整備、2020年4月にはJ館を改装し付属高校が移転してきました。現在はK館の跡地に女子学生寮を建設中で、南池袋3丁目の景色がまた変わるうとしています。

さて、街の変化に目を向けてみると、2008年東京メトロ副都心線開業で雑司ヶ谷駅が出来た事、2015年に豊島区役所が新庁舎となり南池袋2丁目(音大の近く)に移転した事、2020年には豊島公会堂や豊島区民センターが建て替えられ「ハレザ池袋」となり、中池袋公園、南池袋公園等も整備されるく綺麗になった事、池袋の主要スポットを走行する赤くて可愛い『イケバス(1乗車100円)』が街を繋いでいる事など沢山ありました。

私の通学路だった裏道にも変化が見られ、公園なのに薄暗くて汚くて可憐な音大生が通り抜けるのも怖いイメージだった南池袋公園は、青々とした芝生が広がり、人気のレストラン(ラシーヌ)ができて、今は都会のオアシスとなっています。

また東通りは地元の人と音大生しか歩かないような通りでしたが、テレビで取り上げられる話題のお店(老眼めがね博物館、レストラングリップなど)が増え、スマホを片手にお目当てのお店を探して歩く人々が多くなっています。

B500教室の窓から大きく見えていたサンシャイン60は、1978年の開業以来、その姿を変えることなくそびえ立っていますが、近年は、東池袋周辺に高層マンションが次々に建設されて60階の高さが目立つことはなくなりました。

池袋は便利で様々なお店や娯楽施設がたくさんある街です。この文章をお読みになって母校や池袋が懐かしく思っていたら幸いです。新型コロナウイルス感染症が落ち着いたら、ぜひ校友と共に池袋、今、昔を歩いてみてください。



ハレザ池袋



イケバス

## ただ今、劇団で修行中！ピアノ座の渡邊灯人さん、湯本秋帆さん、酒井悠登さん

10月中旬の秋日和の午後、今年71周年を迎えた劇団新制作座(東京都八王子市)の稽古場を訪ねました。稽古場と言っても劇団が共に歩んでいる星槎国際高校八王子学習センター内の立派なホール。その舞台上では公演間近の『野盗、風の中を走る(ドラマティックリーディング公演)』の稽古中。渡邊灯人さんはキャスト〈つっ走りの源〉、湯本秋帆さんは映像担当、酒井悠登さんは音響助手として、他の劇団員と共にそこに姿がありました。

3人は器楽専攻(ピアノ演奏家コース)で学び、縁あって劇団新制作座で修行中ですが、目指すところは〈ピアノも弾ける俳優〉ではないそうです。

劇団新制作座との出会いは2018年で、何と大学キャリア支援センターの《劇団ピアノ伴奏者募集》という求人案内だったそうです。学部3年生だった渡邊さんが見つめて、1年後輩の酒井さんを誘って2人で応募し、共に採用されてすぐに稽古や公演での劇団ピアニストとしての活動が始まりました。公演では渡邊さん、酒井さんの力強くかつきめ細やかなピアノ連弾のせて、俳優が迫力ある語りで多様な世界を描き出す、といった演出があったり、本編公演前のステージでピアノコンサートを行い、観客の心を舞台に引き寄せる、といった劇団ならではの様々な経験を積み重ねてきました。学生時代も人前で演奏する機会が多い2人でしたが、演劇の世界を知ったことにより、多くの人達の思いが一つにまとまって舞台を作り出していく一体感を強く感じるようになり、ピアノの演奏面にもそうした影響が現れてきているそうです。



渡邊灯人さん、湯本秋帆さん、酒井悠登さん

湯本秋帆さんはこの劇団ではまだ新入りで、酒井さんに稽古見学に誘われて、自身もこの世界に引き込まれてしまいました。劇団では基礎稽古として発声・歌・日舞・ダンス・朗読があり、3人もピアノ伴奏が必要な稽古以外は研究生と一緒に参加し、本公演や地方巡演ではキャストやスタッフとして修行中です。



劇団は地方巡演が多く、巡演先ではピアニスト、キャスト、スタッフの3役をこなさなければならず、毎日のピアノ練習が不可欠な3人がどのように練習場所と時間を確保しているか心配ですが、まだ20代の3人はチャレンジ精神旺盛!

劇団での修行を続けながら、ピアノの演奏技術もレベルアップ、コンクールにも挑戦し、〈ピアニスト〉ではなく〈芸術家〉を目指したいと夢は膨らみます。

劇団新制作座の温かいご支援により、3人は劇団所属のピアノ演奏グループ・ピアノ座を結成し、大学で学んだことと劇団で学んでいることをピアノ演奏に活かした『ピアノ座 コンサート』を積極的に行っています。

劇団の俳優、演出家の小津和知穂さんは、舞台人の大先輩であり、何でも相談できるお母さんの存在。3人と時間を掛けた意見交換をし、ピアノ座のコンサート内容や集客方法など、音大の先生とは違った目線で熱心に指導してくださっています。

今回の訪問では劇団新制作座の歴史とその活動も知ることができました。劇団の主要演出『泥かぶり』は絵本で読むこともできますので、校友会員の皆様もぜひ読んでみてください。ピアノ座の若きメンバー3人がそれぞれの夢に向かって歩み続けられるよう、今後もエールをおくりたいと思います。

(本部広報担当)